

高取城の構造を知ろう！

高取城全域を把握することは、広大さと山中の高低差もあり非常に困難です。幕末期の記録では、概ね黒門をくぐった内部を「郭内」と呼び二の門から三の丸・二の丸・本丸を含む部分を「城内」と区別されていました。「郭内」の周囲はおよそ七里余(約28km)にも及び、その面積は約6000万㎡にもなります。まさに日本一の山城です。未整備である場所も多く、お城めぐりは整備された「城内」を中心に散策しましょう。この図は、2013年にヘリによる航空レーザ計測が行われ、それを立体表示した赤色立体地図(※)です。山中にあるお城の造形や構造が非常に分かりやすくなっています。

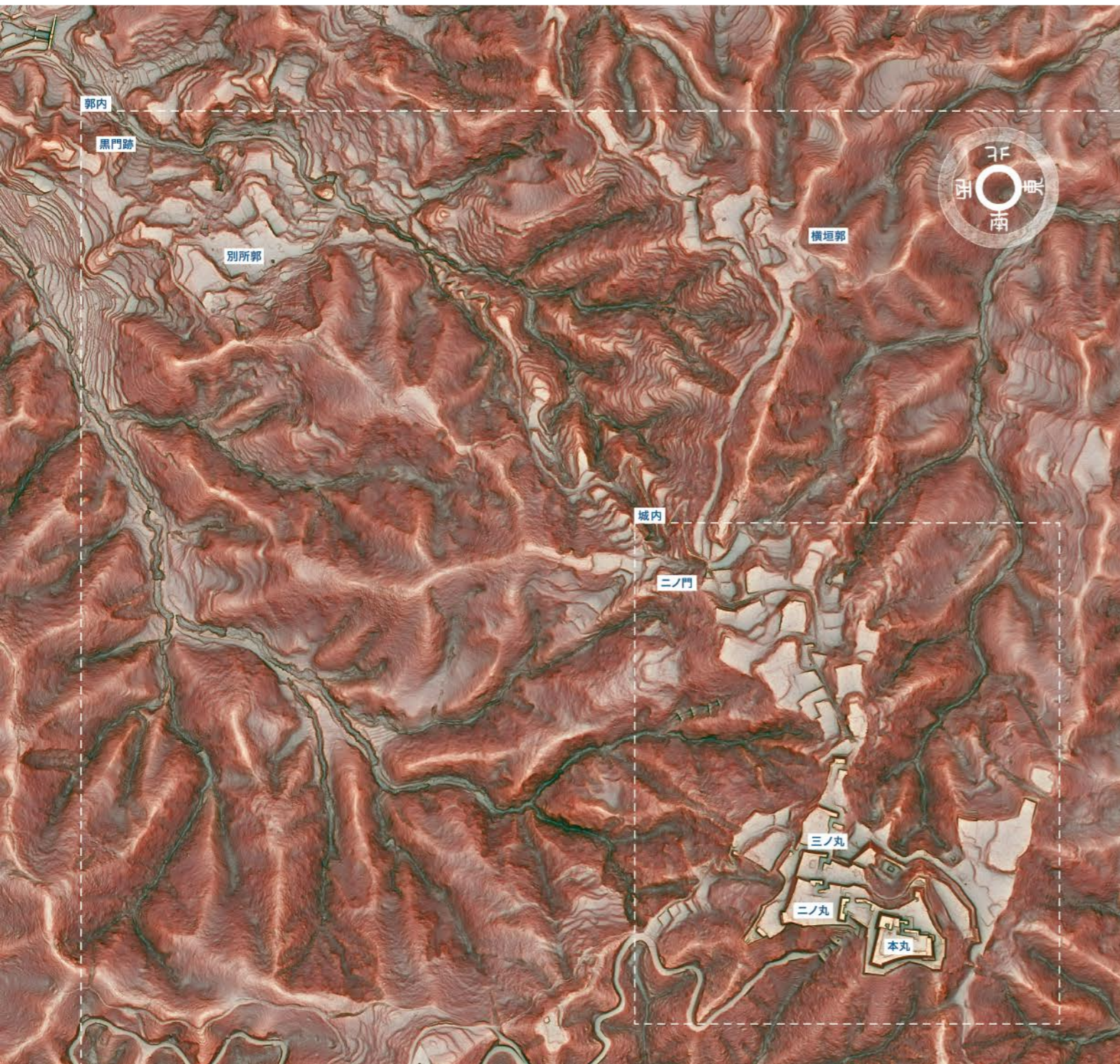
※赤色立体地図とは：等高線図では表現できない線と線との間の地形も全て表現することができかつどの方向から見ても一方が影で覆われてしまうことがない表現方法。



幕末の天誅組との攻防に活躍した高取藩の大砲(レプリカ)です。司馬遼太郎氏の『おお砲』に登場するブリキトース砲をモデルにしています。



高取城の別所郭跡に植村家の菩提寺、宗泉寺(そうせんじ)が建てられています。写真は同寺境内にある(左から)六代家道と七代家久のお墓です。



●高取城赤色立体地図(測量・作図：奈良県立橿原考古学研究所、アジア航測株式会社、2013年)

高取城年表

元弘2年(1332)	越智邦澄、高取城を築城し南朝に加担する。
永享10年(1438)	越智家経、吉岐別所(いきべっしょ)に殺され、高取城落城。
天文元年(1532)	一向一揆勢が高取城を攻めるも越智氏、筒井氏・十市(といち)氏の援軍を得て撃退。
天正8年(1580)	織田信長の命により廃城。
天正11年(1583)	越智家秀の死により越智氏滅亡。筒井家臣、松倉重政が入城。
天正12年(1584)	筒井順慶により修復。
天正13年(1585)	脇坂安治、次いで豊臣秀長家臣、本多利久が高取城主となる。
慶長5年(1600)	関ヶ原の戦いが起こる。松倉重政ら西軍が高取城を攻めるも撃退。本多俊政は二万五千石加増される。
寛永14年(1637)	本多氏断絶により、その後本郷庄左衛門・川勝丹波守・小出伊勢守・桑山修理亮らが城番を勤む。
寛永17年(1640)	植村家政、二万五千石で高取城主となり、家壺まで14代続く。
寛永19年(1642)	この頃より正保2年にかけて城主居所を二の丸から下屋敷へ移転させる。
元禄11年(1698)	家敬、菩提寺となる宗泉寺を創建する。
万延元年(1860)	高取藩、大坂近海の警護を命ぜられ出兵。
文久3年(1863)	高取藩、天誅組を烏ヶ峰にて撃退する。
明治元年(1868)	家壺、十四代藩主となる。
明治2年(1869)	版籍奉還。家壺、高取藩知事となる。
明治4年(1871)	廃藩置県により高取県が誕生、高取城は兵部省の管轄となる。
明治6年(1873)	高取城の入札が実施。二の門、松の門などの移築、解体がはじまる。
大正4年(1915)	高市郡役所により本丸に「高取城址」の石碑が設置される。
昭和28年(1953)	高取城、国史跡に指定される。
平成16年(2004)	松ノ門の一部が児童公園に復元される。
平成18年(2006)	財団法人日本城郭協会によって日本100名城に選定される。

高取藩主・植村氏の功績
高取藩主として明治期まで続いた植村氏は、徳川家譜代の家臣です。徳川家がまだ松平姓を称し、三河国の一土豪に過ぎなかった頃より御国衆と呼ばれた三河武士は、苦節を共にし、何度も困難を乗り越え、そしてついに天下を制して徳川政権の基礎を築きました。そんな御国衆は、松平氏発展の時期に従い、岩津(愛知県岡崎市岩津町)譜代・安祥(愛知県安城市安城町)譜代・岡崎譜代に区分され、植村源三郎持益は安祥城の松平長親(家康より四代前に仕えた安祥譜代でした。天文4年(1535)植村氏明は、松平清康(家康の祖父)に従い、織田信秀(信長の父)との合戦のために尾張国森山(愛知県名古屋守山区)にいました。この時、清康は陣中にて家臣の阿倍弥七郎に殺されるも、氏明はすぐさま弥七郎を討ち取り、主君の仇を報じました。この出来事

は森山崩れとよばれています。この後、勢いを得た織田信秀が三河国に攻め寄せますが、氏明は陣頭に立ち、抜群の武功をあげました。しかしその後同11年、杏掛の一戦にて松平広忠(家康の父)を救い殿軍をつとめたのですが、あえなく討死となります。広忠が近侍岩松蜂弥に斬りつけられようとした時には、その場で蜂弥を組み伏せるなど、何度も主君の窮地を救いました。広忠からは「当家随一の武功忠節の者」として称えられ、一文字を家紋としました。元来土岐氏の定紋である桔梗紋を使っていた植村氏でしたが、桔梗を半分にした、現在伝わる「丸」に一文字「家」を名乗ることとなったのです。

- 植村家歴代高取藩主**
- ① 家政 藩祖。大坂の陣に従軍。高取城二万五千石を賜う。
 - ② 家貞 家政の三男。弟政春に三千石を分与。
 - ③ 家言 家貞の次男。兄政成が病弱の為、家言を継ぐ。
 - ④ 家敬 家言の長男。政成の長男。家言の養子となり家言を継ぐ。
 - ⑤ 家包 家敬の弟。政春の孫。
 - ⑥ 家道 家敬の四男。
 - ⑦ 家久 家道の長男。
 - ⑧ 家利 家道の四男。奏者番、寺社奉行などを兼務し、若年寄から老中に昇格。
 - ⑨ 家長 家道の次男。奏者番、寺社奉行などを兼務し、若年寄から老中に昇格。
 - ⑩ 家貴 家長の長男。
 - ⑪ 家教 家長の次男。兄家道の養子となり家言を継ぐ。
 - ⑫ 家興 家教の子。家貴の養子となり家言を継ぐ。その年に死去。享年十九。
 - ⑬ 家保 家興の子。家興急死のため養子に。文久3年(1863)天誅組を撃退。
 - ⑭ 家壺 本多忠頼の子。明治の版籍奉還により高取藩知事に。同4年廃藩。